さんないまるやま　つうしん

三内丸山通信

第46号
平成20年12月12日

青森県教育庁文化財保護課
三内丸山遺跡保存活用推進室
〒030－8540　青森市新町２丁目３－１
ＴＥＬ（017）734－9924
ＦＡＸ（017）734－8280
三内丸山遺跡保存活用推進室　分室
〒038－0031　青森市三内字丸山293
ＴＥＬ（017）781－6078
ＦＡＸ（017）781－6103
URL:http://sannaimaruyama.pref.aomori.jp/

平成20年度 発掘調査の成果

今回の調査（第32次調査）は5月22日から9月30日まで、遺跡南西部の墓域にある環状配石墓の造り方や年代などを調べました。調査区は縄文時遊館の出入口付近にあり、今年は環状配石墓の南側を詳しく調べました。

昨年との共通点・相違点

環状配石墓は亡くなった人を入れた「埋葬部」と、それを石で取り囲む「配石部」で構成されます。

今年調査した4基全てで、昨年と同じように配石部1基に対し埋葬部が1基造られていました。埋葬部は楕円形で、道路跡に対して直交しています。底面はいずれも平らで、わずかですが、道路跡に向かって傾いているようです。

配石部の石の種類を調べたところ、大半は安山岩で、他に凝灰岩、石英安山岩が使われており、昨年度と似た結果になりました。石の置き方は半円状に並ぶものが多く、石の長軸を円に対して平行や直交するように組み合わせて並べている部分もありました。

昨年と異なる点もいくつかあります。副葬品は今年は全く出土しませんでした。また、埋葬部の底面の大きさは4基とも短軸は0.6～0.7mとほぼ同じでしたが、長軸は1.6～2.2mまでと幅があります。昨年確認した壁際の底面を巡る細長い溝は一つも確認できませんでしたので、埋葬部の構造が違っています。

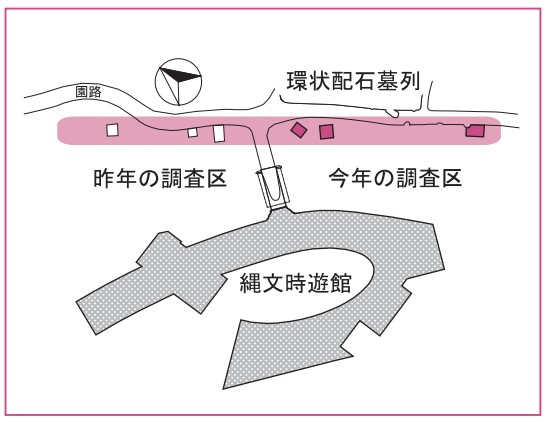
9月13日に開催した「現地説明会」で調査成果を報告しました。

第31号環状配石墓の謎

今年度調査した中で、特に第31号環状配石墓には他と異なる点があります。

埋葬部の石の種類は凝灰岩が最も多く、石の配置も列にならず数個の石がまとまって点在するような状況となっていました。埋葬部の向きは、ほぼ真北を向いていて、北東方向にある道路跡を向いている他の3基と異なります。この違いがどのような意味を持っているのか、これから調べていくことにしています。

第31号環状配石墓



環状配石墓列の南端はどこ？

これまでに確認している最も南の第40号環状配石墓より南側では新しい環状配石墓は見つかりませんでした。この結果、遺跡南西部の環状配石墓列は約210mにわたって広がることが確定しました。

縄文大祭典開催！

秋晴れの9月13日（土）と14日（日）、三内丸山遺跡において『縄文大祭典』を開催しました。2日間で約7,400人が訪れ、大いにぎわいました。

『縄文大祭典』では、より多くの皆さんに縄文文化の価値や魅力を感じていただくため、「発掘調査現地説明会」や「縄文お月見コンサート」、「シンポジウム・フォーラム」、「縄文映画上映」、「火おこしチャレンジ」などを実施しました。

このうち、シンポジウム「円筒土器文化の世界」では、三内丸山遺跡と同じ時期の北海道・北東北の遺跡が詳しく紹介され、各地の共通点や違いが話し合われました。また、「火おこしチャレンジ」では、煙が出るものの残念ながら着火できた人がいませんでした。

火おこしチャレンジの様子

世界文化遺産登録に向けて大きく前進！

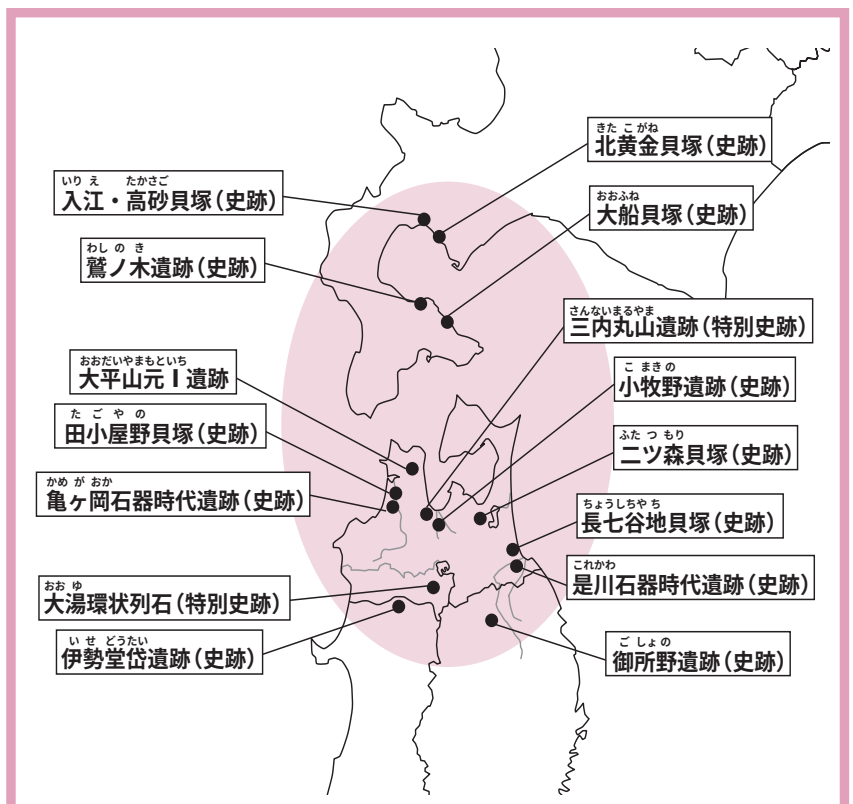
平成20年9月26日、青森県と、北海道、岩手県、秋田県が共同で提案した「北海道・北東北の縄文遺跡群」が、世界文化遺産の国の正式な候補である世界遺産暫定リスト入りすることが決定しました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、特別史跡及び史跡など15の縄文遺跡で構成され、世界文化遺産候補として次のような高い評価を受けました。

『氷河期が終わり、その後の暖かい環境の中で約1万年間続いた縄文遺跡は、同じ頃の世界の他の地域で見られる農耕や牧畜の文化とは異なった、狩猟や漁労、採集など日本列島独特の生活の様子を示している。また、日本の歴史の中では非常に長く続き、自然と人間が共生したことがわかる遺跡として、世界遺産の登録に必要な基準を満たす可能性が高い。』

また、世界文化遺産登録を実現するためには、北海道・北東北地域以外の縄文遺跡についても加えることが必要とされました。

今後、こうした課題を踏まえて世界文化遺産登録に向けた取り組みを進めていきます。



「北海道・北東北の縄文遺跡群」位置図

あおもり縄文展開催！

平成20年11月22日（土）から平成20年12月21日（日）までの間（休館日：月曜日。ただし、月曜日が祝日、振替休日の場合は翌日）、福岡県太宰府市にある九州国立博物館において、「あおもり縄文展～JOMONを世界へ、三内丸山からの発進～」を開催しています。

この展覧会では青森県の縄文遺跡の価値や魅力についてより多くの方に理解していただけるように、青森県内の縄文遺跡から出土した貴重な遺物約500点を一堂に展示します。

また、12月20日・21日には、世界遺産暫定リスト入り決定を記念したフォーラムも開催します。

テープカットで開幕です。

三内丸山遺跡のご案内

■**休館・休業日**
12月30日～1月1日

■**遺跡の開園時間**
＊10月～3月　午前9時～午後5時（入場は終了時間の30分前まで）

■**入場料**　遺跡内・時遊館・展示室とも無料

■**駐車場**　普通車用・大型車用・身障者用あり（無料）

■**ガイド**（無料・個人参加は事前申し込み不要・団体は要申し込み）

＊**遺跡ガイド**
1回目は9時15分から、その後は10時から1時間おき、最終は15時30分

問い合わせ：017-766-8282

＊**展示室ガイド**
午前10時50分・午後1時50分・午後3時50分

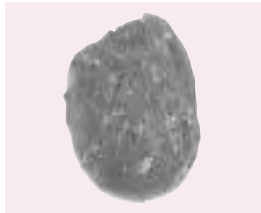
■**交　通**
＊ＪＲ青森駅から＊　車で約20分（約7㎞）
市営バス「運転免許センター」行き「三内丸山遺跡」下車
＊青森空港から　車で約30分（約8.5㎞）
＊東北自動車道青森ICから　車で約5分（2㎞）
＊青森港フェリー埠頭から　車で約30分（7㎞）

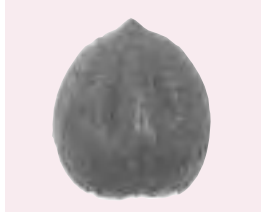
問い合わせ：017-781-6078

展示室 第二回 企画展のお知らせ

12月1日から来年2月28日まで、三内丸山遺跡展示室の企画展示室において『縄文フルーツ＆ベジタブル　ここまでわかった三内丸山遺跡の青果展』を開催しています。発掘で掘り上げた土の中には、土器や石器以外にも大切な情報が残されています。植物の種子もその一つで、私たちに当時の食べ物や環境について教えてくれます。

今回の展示では縄文時代の地層から見つけ出した、食用になる植物の実や種子を展示し、最新の研究成果とともに紹介していきます。縄文時代のドングリやクルミ、キイチゴやヤマグワ、サルナシなどのほか、穀物の種子、酒造りの可能性が指摘されているニワトコの種子などを展示します。小さな種子から広がる縄文時代の食卓風景を想像してみませんか？


マメ科の種子


ブドウ属の種子